

横須賀上映

2026
4/19
(日)

ドキュメンタリー映画

「はだしのゲンはまだ怒っている」

上映と

込山正徳監督のトーク

40分 90分

広島県知事推奨

文部科学省選定

第39回
有料上映会



16ミリ試写室

一作の漫画が、なぜ、
いまなお私たちを
熱くするのか?
その「誕生」から「現在」を
見つめるドキュメンタリー。

はだしのゲンは また怒ってるは



中沢ミサヨ 神田香織 渡部久仁子 江種祐司 阿部静子 大嶋賢洋 アラン・グリースン 後藤寿一 平岡敬 山本加津彦 小谷孝子
企画・監督・編集:込山正徳 プロデューサー:高橋良美 木村利香 共同プロデューサー:大島新 前田亜紀 音楽:茂野雅道 制作:東京サウンド・プロダクション
制作協力:ネッサン 宣伝協力:リガード 配給:アギ制作 製作:BS12トゥエルビ 2025年9月19日(日)日本ドキュメンタリー gen-angry.jp

午前の部

午後の部

10:30~/14:00~ (開場30分前)

2026年

4月19日

日

横須賀市文化会館 大ホール

チケット料金

1,200円 (前売り 1,000円)

京急線横須賀中央駅下車 徒歩10分

横須賀市深田台50

046-823-2950

高校生以下無料 〈全席自由席〉

※なお、内容は変更する場合があります。予めご了承ください。

チケット販売: 横須賀市文化会館

046-823-2951



信濃屋書店 (若松町)

046-822-0405

井出新聞店 (衣笠栄町)

046-851-0235

アナザワフォト (追浜駅前)

046-865-9963

主催: 16ミリ試写室 <https://y16miri.com>

問合せ: 090-2901-0862 (松澤)

感染症予防対策にご協力ください。

体調の優れない方は参加を控えて下さい

後援: 横須賀市 横須賀市教育委員 (公財) 横須賀市生涯学習財団 (福) 横須賀市社会福祉協議会



アメリカに真正面から怒り続ける少年ゲンとは？



アメリカが広島に落とした原子爆弾で被爆し、家族を失った少年ゲンが、貧困や偏見に苦しみながらも力強く生き抜く姿を描いた漫画「はだしのゲン」。主人公のモデルは6歳で原爆を体験した作者の中沢啓治さん自身です。『週刊少年ジャンプ』での連載が始まった1973年から半世紀、25ヶ国で翻訳出版され、2024年には漫画のアカデミー賞とも呼ばれるアメリカの「アイズナー賞」を受賞。手塚治虫さんや宮崎駿さんらに続き、殿堂入りを果たしました。しかしこうで近年は、「描写が過激」「間違った歴史認識を植え付ける」などと、学校図書館での閲覧制限を求める声が上がったり、広島市の平和教材から消えるなどして、大きな議論を呼びました。なぜ、いまなお一作の漫画がこれほどまでに私たちを熱くするのでしょうか？

戦後80年を経ても消えることのない怒りと悲しみ、そして優しさ

本作は、メディア・アンビシャス映像部門大賞、第15回衛星放送協会オリジナル番組アワード番組部門〈ドキュメンタリー〉最優秀賞などを受賞したBS12スペシャル『はだしのゲン』の熱伝導～原爆漫画を伝える人々～の映画化です。監督は「春想い～初めての出稼ぎ～」「われら百姓家族」など数々の傑作ドキュメンタリーパン組を手がけてきた込山正徳。映画化に際して、込山監督を敬愛してやまない大島新（『香川1区』『国葬の日』）と前田亜紀（『NO選挙、NO LIFE』）が共同プロデューサーとして参加しました。“戦後80年”を迎えたいまもウクライナや中東では戦火が続き、核の脅威は決して過去のものではありません。映画は不朽の反戦漫画の誕生から現在を見つめ、私たちが生きているこの世界に溢れる、怒りや悲しみ、そして優しさを映し出しています。



ライムスター宇多丸

ラッパー／ラジオパーソナリティ

もし、「はだしのゲン」がこれほど広く読まれていなければ……核兵器というものに対して、日本人の多くもまた、いまだにハリウッド映画レベルの呑気な認識しか持てていなかつたかもしれない。不愉快な現実＝歴史をこそ直視し語り継ごうとするこの真の「国民的マンガ」を、つまり我々は決して、手放してはならないのだ。

宮崎園子

フリーランス記者

軍国主義と核兵器の犠牲になった人々の声を背負って、怒り続けたゲン。その居場所が、広島にすらなくなりつづある。ゲンの怒りは嘆きにもなり、今、わたしたちに向けられている。もう忘れてしまったのか、再び繰り返すのか、と。

まだ怒っているゲンが、ずっと問いかけてくる。歴史とは都合よく捨曲げられるものだと予見していたのかもしれない。

武田砂鉄

ライター

「6歳の中沢さんが見た地獄」から、私たち大人は何を学ぶでしょうか。小さなゲンを常に心に抱くことで、平和ある未来は必ず形作られるのだと思います。

内田也哉子

文筆家

gen-angry.jp

× @Gen_Angry_Film

facebook.com/gen.angry

Instagram.com/gen_angry

込山 正徳（こみやま・まさのり） 企画・監督・編集



1962年横浜生まれ。日本大学芸術学部映画学科卒業後、フリーの映像ディレクターとして、約40年間ドキュメンタリーパン組を制作。テーマは主に市井の人々の喜びと悲しみ。「春想い～初めての出稼ぎ～」（94／フジテレビ「NONFIX」）でギャラクシー選奨受賞。「生きてます16歳～500gで生まれた全盲の少女～」（00／フジテレビ「ザ・ノンフィクション」）でATP総務大臣賞受賞。「われら百姓家族」（00／フジテレビ「ザ・ノンフィクション」）はシリーズ化され話題になる。「中国 晴海から寂聴への旅 瀬戸内寂聴80歳」（02／NHKBS正月特番）の撮影で瀬戸内寂聴さんと中国を2週間旅をする。「女装と家族と終活と～キャンディさんの人生～」（21／フジテレビ「ザ・ノンフィクション」）では伝説的な女装家の人生を追った。2005年、自らのシングルパパ・ライフを綴った「パパの涙で子は育つ—シングルパパの子育て奮闘記」（ポプラ社）を上梓、2007年にフジテレビ「金曜プレステージ 父の日スペシャル パパの涙で子は育つ」として江口洋介主演でドラマ化された。「人生最終章に花道を～横須賀・町医者が見つめる生と死と、日々～」（23／BS12スペシャル）は横須賀市内を疾走する千葉医師の活動を追った。

16ミリ試写室



『16ミリ試写室』は1977年に発足。「どこでも素敵な映画館」を合言葉に、県や市の視聴覚ライブラリー所有の16ミリフィルムや映写機を活用し、視聴覚教育活動を続ける女性のNPO団体です。横須賀市内の図書館やコミセンなどの社会教育施設、老人ホーム、障がい者施設、地域の集会室などで年間約70回の映画会を開催しています。さらに、「心に響くメッセージを廉価で届ける」を目的に、ドキュメンタリー映画を中心に有料上映会も開催しています。2013年春 地域交流支援活動奉仕団体として緑綬褒章を受章。



16miri.com